



と う ほ く

AOMORI · IWATE · MIYAGI · AKITA · YAMAGATA · FUKUSHIMA

第2号

発行所
東北地区屋外広告美術業組合連合会
情報文化委員会
事務局 TEL 257-0437



第13回 東北六県公共パネル作品展 盛大に仙台市勾当台公園で開催

青森・岩手・秋田・宮城・福島・山形の各組合員から5点ずつ宮城県10点 宮城の協賛6点合計41点の作品展が宮城県仙台市で平成2年10月25日～27日まで開催されました。作品は各県の代表ですので、いづれ劣らぬ力作ぞろいで、道行く人公園に来る人々の注目を呼びました。審査の結果建設大臣賞には山形県(株)スカワさんの作品が選ばれました。出品された事業所の方々本当にありがとうございました。

パネル展の審査講評

宮城県工業高等学校インテリア科
課長 穴戸 睦郎
教諭 大出 光一

東北地区屋外広告美術業組合連合会主催による公共パネル展も十三回目となり、年々それらの作品が充実且つ向上していることを実感しました。

日頃、商業的なものを手懸けられていた第一線の方々が、こうして公共的テーマ作品を互いに持ち寄り、公共への奉仕活動を通じて、大衆に貢献をし、且つ、それらによって、時代性を把握した上での、技術向上を目指している姿勢に、敬意を評したいと思います。さて、東北六県から寄せられた三十五点の作品から入賞作品を選びましたが、素晴らしい作品群に圧倒されました。私達なりに評価基準として、四項目の観点から選定させて頂きました。

その一つ目は「時代性」です。時代を認識した上での感性度、センスを条件としました。二つ目は「テーマに副った表現力」です。テーマをどこまで深く追求した作品であるかを条件としました。三つ目は「対象年齢の広さ」です。屋外広告は、若年層から高齢者まで幅広くアピールするものです。大衆的視点を条件としました。四つ目は「安全性・耐久性」です。長時間屋外に設置しても安全性の点で満足するものかどうかと言う条件を設定しました。以上の四項目の条件から入賞作品が選ばれました。慎重に審査致しました。

建設大臣賞(その一滴の快楽が人生を駄目にする) 山形県(株)スカワ。
◎日広連会長賞(さようなら人類) 秋田県(株)新和工業、1フォルメ化された地球と人間。そして文字のデザイン処理が素晴らしい。だが、意外性という点から見れば申し分ないのですが、環境問題を訴える内容であるにもかかわらず、絵柄に関連性を見出すのに時間がかかる点が難点です。以上日広連会長賞まで。

設営に参加の皆様本当にありがとうございました。開催中は見学者にチラシ(一千部)配る、平成三年度は岩手県になります。よろしくお願い致します。

所感

東北地区屋外広告美術業組合連合会
会長 須賀 政雄

茶道に「一期一会」と言う教えがあり、一生のうち、その人と会えるのは一度限りであると考え、心をこめてもてなす様にと教えております。東北地区連の総会是一年に一度であり、今年も元気で会いたい出来たとお互いに心なごむ総会でありたいと願っております。

昨年十月開催の公共パネル展は東北六県を二巡し、三巡目の十三回となりました。東北地区連合会と致しましては唯一の社会奉仕事業であり、技能向上を目的としたイベントであります。会員の皆様の熱心なご協力に感謝申し上げます。本年一月開催の第十回技能グランプリには、日頃の技術の研鑽の成果として一位に岩手の長嶋さん、三位に山形の菊田さん、五位に福島の松野さん、優秀賞に宮城の佐々木さんと秋田の小畑さんと言うことで東北五県から入賞者が出ました。日広連の技能開発委員会の鈴木泰治委員長はグランプリも十回目であるが、一地区でこの様な多数の上位入賞は始めてであり、東北の技能の高さを全国に昂揚した大会であったと賞賛されました。

年号が平成と変わりましたから都市影射問題がクローズアップされて来ました。これは屋外広告業界としては重大な関心事であり、対応策を研究しなければならぬと考えます。

カッティングマンの普及により、看板屋さんの本領である書くと言うことが少なくなりましてことに依り技能の軽視が見られますが、こう言う時代であるからこそ、デザインの重要性が大きくなったと考えられます。日広連においても、サイエンスクリエーターの養生、「サイエンス・イン・ジャパン」「新作サイエンスデザイン集」の発行等、サイエンスの理論と実務指導・専門的知識の普及につとめております。

情報化社会と言われている現在は、特にコミュニケーションが大切と考えますので、各委員会の運営に於ては、中央委員長の居られる県で委員会を開催、地元組合員とのコミュニケーションの場を広げたいと考えております。

青森県

平成二年度の事業の報告

青森県屋外広告美術協同組合

委員長 貝瀬俊治

平成二年度事業計画案の冒頭には先ず「組合員諸君・組合が何をしてくるかでなく、組合のために何が出来るかを考えてほしい。」と書かれてある。

望まれるのは組合員の互助の精神に基づく自主的な活動である。さて平成二年度の最大事業は「創立三十周年記念式典及び諸行事の実施」であった。

この事業の成功は正に組合員の互助精神に基づく自主的活動のあらわれと言え得ると思ふ。

- 青森支部 57店
弘前支部 13店
八戸支部 18店
十和田支部 16店
賛助員会 11店
県外スポンサー 29店

の応募を得、また「あおもりサインズ資材展90」には中央メーカー外十六店の出展により当組合創立三十周年の記念事業に華をそえたことを記し、関係各位にあつく敬意と感謝を捧げる次第である。さらに各支部は独自の事

業・行事を行って三十周年を祝い、組合の社会的存在をアピールし、同時に資材関係の各社、屋外看板受注各位との関係を密接にし、関係官公営各機関全国同業協同組合のご協力と親睦に実効をあげ得たことを喜びたい。

平成二年度事業計画に掲げ、実施が不十分または再検討をすべきものは、平成三年度の事業計画にとり入れ、検討し、前年度の反省にたつて効果的な実施をはかれることになるが、組合にとって平成二年度は誠に意味深い年度であったと思う。

加えて平成二年十月十八日に全国中小企業団体中央会より全国大会に於いて表彰の栄を受けたこと、また参与石岡竹太郎氏の勤七等青色桐葉賞叙勲、佐藤清治氏の卓越技能者の労働大臣賞の受賞がさらに平成二年度の組合にとって栄光への年であったことを痛感させるものがある。

- 終わりに平成二年度に於いて実施された事業を挙げて報告を終わりたい。
○組合財政の確立(増資)
○支部活動の活性化
○パネル作品展、グランプリの参加
○技能検定受験の奨励
○情報の伝達、連絡網の確立
○友好団体との交流・協力
○青年部の拡充

岩手県 岩手、堂々、技能グランプリ一位入賞

岩手県情報文化委員長

鎌田昌孝

岩手県屋外広告美術業共同組合は、この激動の世界情勢の中、今年創立三十周年を迎えます。

特別に、記念すべき年の事業というものは用意いたしておりませんが、理事会といたしましては、県の業界、組合内外の正確な実態を完全に把握す

ることになり、書類を作成し、プロック毎にリサーチをまとめることになりました。

三十周年の記念式典は十月を予定致しており、予算の枠も決定致しました。現在企画委員会は基本計画のプランニングをまとめる作業に取り組んでお

ります。

岩広美の青年部は「広和会」と言い、土村会長以下十名が活動しております。あまり活発な動きは見られませんが、高橋理事長の提案によると、創立三十周年を機に青年部会員を充実させ活動予算も増やし、マンネリズムの組合内部に新鮮なルネッサンスの風を送りこもうという計画が発表されております。

昨年の動向をいたしましては二月十月に、中小企業団体青年部ソフトボール大会に十三名で参加(応援二名)し、また、十二月六日に行われました中小企業団体青年部岩手県大会におきましては、二名参加しております。

岩手県では、今年から始まる四大イベントの一つとして「ささえる長寿、あなたが主役」をテーマに長寿と健康の祭典「ねんりんピック91第四回全国健康福祉祭りいわて大会」が厚生省、全国福祉推進協議会の主催でおこなわれることになりました。

おきましては盛岡市など六市五町三村に会場として盛岡市など六市五町三村におきまして三十六の競技や交流が予定されております。期間中の参加者といしましては全国から十万人が見込まれております。遠からず確実に始まる高齢化社会に向けてスポーツや心の幅広い交流の一大祭典となるでしょう。

このシルバーパーパワールの結果が終わると来年は、「三陸、海の博覧会」そして93「国民文化祭」、「世界アルペンスキー選手権大会」と続きます。我が業

山形県

平成三年

山形県情報文化委員長 古澤龍一

平成三年は年明けから、湾岸戦争、ソ連バルト三国紛争、地球環境問題と激動する舞台の幕開けを思わせる様である。

二十世紀を迎えるにあたり、人類の一大変革期なのだろうか、天啓的なもの様に感じられる。十九世紀迄続いた社会構造から今新たなものへと生まれ変わる胎動なのかも知れない。

搾取に依って成り立たせてきた先進国といわれる国々も、発展した情報と

界も増々忙しくなりそうです。近況報告としてのビックニュースがあります。それは平成三年度技能グランプリ第一位を岩広美の長嶋勝敏君が受賞したことです。

も今年で十周年を迎え、この記念するべき一つの節目に堂々と第一位を獲得した輝かしい快挙に我々は心から大きな拍手を送りました。

技能グランプリのあり方に対する議論は以前から事ある毎に交わされて、いかにデザイン力を発揮し効果を上げることが出来るかが上位入賞のキーポイントであるとされており、表現テクニックは、ほとんど互角であると言われております。

今回の勝因はデザインとコンセプトの問題で充分に時間をとり徹底的にテーマを追求、完全に内容をマスターしてから競技会場に乗りこんだことにあると思ひます。

彼はデリケートで太っぴら、淡淡と仕事をこなすタイプですが、今回も肝心の原稿を家に忘れファックスで取りよせるハプニングがあり「大器」の一面をみせております。奇しくもサブタイトル「コピー」が「平和につくす技能のひろがり」ということで、多国籍軍が一日で六十六億円も消費するという湾岸戦争の環境破壊は、あらためて人間のおろかさや考えさせられますが、我々の職業を通じて世界の平和に少しでも貢献することが出来たら……とつい考えこんでしまう昨今です。

ご存知の事と存しませんが、諸官公庁において発注されるものに対する価格の算定基礎の件で、あまりにも実状にそぐわぬものがまかり通されているという事である。

これは山形市の場合であるが、関係機関に配布されている積算表なるものの中の、我々屋外広告業者の一日の日当が七〇〇〇円と記載され、それに依って発注物の価格の算定を成して居るという事である。

例えば、市職員が四十才迄勤務した場合約三〇、〇〇〇円の給料に対し、屋外広告の場合、七〇〇〇円の割りで算出してみると、わずかに約一三七、〇〇〇円これは市職員の初任給とほぼ同額なのである。この様な差別が今現実に横行しているという事はいかに我々業界が低い地位に甘じて居るかという事である。

この算出表は全国規模で配布されているものであり、山形県のみで問題ではないと思うのであるが、誠に慚愧恥辱のなにもでもない。これらの問題を組合運動に取り組み、組織力をもち

ものであろう。我々業界もそれらと共に改革の必要にせまられているのではなからうか。

山形広美も購読事業はじめ諸事業に付いては例年のごとくで細部は省略するが、ほぼ一〇〇%成功裏に終了、組合員の団結も一段と強まり、平成三年度もより以上の成功をみる事であろう。

平成四年には山形県にて国体が開催される、今山形県では全県上げそののリハール競技が催され、組合の努力の結果共同受注を取り付け施行にあたって居る。

此の国体関係の事業の共同作業が成功か不可かに組合の今後の活動の指針と成るかいなか、また組合の存在意義も問われる事であると考へ、執行部一同奮起努力して居るところである。

組合諸事業は以上であるが、対外的に取組まなくてはならぬ問題もあり、他県諸兄のご意見指導等をおおぎたく記するのであるが、組合も、単細内部のみの活動範囲では解決出来ぬ問題が多数あり、地区連及び日広連の組織力を利用して我々屋外広告業界の社会的地位向上を計らねばと考へるところである。

又今後はそう早急に体質改善が希めるものでもないで、従業員等の若手労働者の確保は益々難しく成る事は必定である。零細企業は一人親父的な企業と成り、働き手は足りなくなる。その時一体何が大切か、それは協業化的な組織力が必要となる。お互いに助け合える組織に依って、人手及び仕事の確保等協同化を計る事である。

山広美ではその為の予備知識として青年部を設立、協同作業等を行って来た。一人親父では出来ない大きな仕事も、この組織に依りいかなるものも心配なく施行出来る体制が出来つつある。これなどは今後の協同組合の進むべき指針と成ることと信じて居る。

一人前の組織にする事は並大抵な事では出来ぬ、かの労働組合が血と汗を流した運動経過を知る時、我々も血と汗を流さずして社会的地位確保は不可能かもしれないが、現在執行部と成って居る我々が、その先駆者たるべきと考えた努力し新しい年明けにこれらの目的が達せられる様組合改革を祈するものである。

て関係機関に運動を進める事こそ、責務である。

今日の日本の繁栄を築いた陰には労働組合の押し上げがあったからだと聞く。大企業、官公庁も労働組合の組織を活用し今の地位を獲得したのである。

大企業は今豊まれたものに成った。これからは小零企業をもっと豊かなものにしなければならぬのではなからうか。これは屋外広告業のみの運動では駄目な事で、他企業共同組合との連携を持たなくてはならないことでもあるので大きな組織力が必要と成るであろう。

現在の社会的構造は個人的にも搾取を容認している。いかに上手に搾取するかが企業繁栄の鍵なのだ。資本主義は当然の事ながら、共産主義に至っても同じ有様である、現在のソ連を見る時、マルクスの提唱した共産主義は現実のものとはならなかった。なぜなら民衆が搾取を容認する思想から抜け出す事が出来なかつたからである。それが人間の本性と成っている以上組織こそがその利点を利用して繁栄出来る。大企業や国として組織以外の何ものでもない。その力を真の力として活用してこそ共同組合の存在意義があると信じる。

又今後はそう早急に体質改善が希めるものでもないで、従業員等の若手労働者の確保は益々難しく成る事は必定である。零細企業は一人親父的な企業と成り、働き手は足りなくなる。その時一体何が大切か、それは協業化的な組織力が必要となる。お互いに助け合える組織に依って、人手及び仕事の確保等協同化を計る事である。

山広美ではその為の予備知識として青年部を設立、協同作業等を行って来た。一人親父では出来ない大きな仕事も、この組織に依りいかなるものも心配なく施行出来る体制が出来つつある。これなどは今後の協同組合の進むべき指針と成ることと信じて居る。

一人前の組織にする事は並大抵な事では出来ぬ、かの労働組合が血と汗を流した運動経過を知る時、我々も血と汗を流さずして社会的地位確保は不可能かもしれないが、現在執行部と成って居る我々が、その先駆者たるべきと考えた努力し新しい年明けにこれらの目的が達せられる様組合改革を祈するものである。

現在の社会的構造は個人的にも搾取を容認している。いかに上手に搾取するかが企業繁栄の鍵なのだ。資本主義は当然の事ながら、共産主義に至っても同じ有様である、現在のソ連を見る時、マルクスの提唱した共産主義は現実のものとはならなかった。なぜなら民衆が搾取を容認する思想から抜け出す事が出来なかつたからである。それが人間の本性と成っている以上組織こそがその利点を利用して繁栄出来る。大企業や国として組織以外の何ものでもない。その力を真の力として活用してこそ共同組合の存在意義があると信じる。

秋田県

組合自主研修会で連帯意識を高揚

秋田県組合事務局 斎藤 正

人手不足をかこちながらも景気好調の波に乗って、組合員各自は事業多忙の中に暮れた一年であった。それだけに組合に関心を寄せながらも積極的な行動に踏み切れなかった一年でもあった。しかし、その中であって恒例の公共キャンペーン作品展は九月五日から十四日までの十日間、五十組合員の出展で開催された。これまでの開催要項と変わった点は、作品テーマを「環境保全」一つに絞ったこと、製作に当たっては作り易い面と逆の考え方があったと思うが、次年度への課題として検討されることとなった。

機関誌「秋広美」が平成三年一月一日発行をもって、昭和四十六年四月第一号以来百号を重ねることになり、記念号として急拠二つの座談会を企画。一つは行政・学識経験と組合の三者による座談会、もう一つは機関誌の編集責任に当たった方々によるものであるが、三者座談会は業界を取りまく種々な環境、魅力ある業界づくり、そして将来の業界の向うべき方向など熱心に語られた。後者の座談会は創刊の苦労話など内輪話を中心に進められた。また百号記念に組合員から多数の草稿が寄せられ、組合に対する関心の一端を示してくれた。

当初事業計画に盛り込まなかった事業で、大きな規模で実施されたものとして「組合自主研修事業」がある。これは秋田県中小企業団体中央会の後押しによるものであるが、国からの補助が付いた中央会の企画事業の一環で、当組合に白羽の矢が立ち、年度途中から実施することとなったものである。

この事業の趣旨は、組合員の資質の向上を図るとともに、組合の活力と創意工夫を醸成するものとしており、対象組合は組合員三十名以上で、一回の研修の受講者が十五名以上、年間三回以上の研修会を持つことが条件で、補助額は研修費総額の二分の一。ただし上限額があり、実施組合はその額以上の支出を必要とするとなっている。研修内容に規制はなく、講師のあり方も中央会がする。秋広美では、この研修計画として、

一、テーマによる広告物製作実技講習
講師 理事長丸谷泰博
受講者 六十四名

二、企業経営と健康管理
講師 医学博士対馬清志
受講者 三十一名

三、今年の景気見通しについて
講師 羽後銀行調査役武藤隆二
受講者 三十三名

四、広告物製作機器実技研修
講師 中村塗料販売株課長加賀
受講者 谷弘他

受講者 三十三名
をとりあげ、計画通り実施、終了した。事業厚生委員会の初の試みとして、組合員及び従業員としてTシャツのオリジナル版を作製、二百五十枚の注文に応じた。支部活動としては、中央支部では、昨年が組合の三十周年記念事業などで実施できなかった「秋の鍋つこ大運動会」を開催。秋田市の郊外で太平山を背にした高台、元小学校敷地の尾外運動場で、現在は市営の「藤倉山の家」レクリエーション施設を借用して行った。

競技は十一種目に、組合員・従業員と家族などで二〇〇名が参加。この日の最高の豪華商品が当るジャンケン大会は、全員参加によってジャンケンで最終勝ち残り者が受賞するものだが、今回は小学生対大人の決戦となった。全員監視の中で両者対峙し雌雄を決するかに見えたが、「勝ちの子供に譲ります」の一言に、この勝負をうわしき互譲の精神の発露をもって終り、居並ぶ参加者に深い感銘を与えるひと幕となった。つなみに賞品はカーテレビで、「これが欲しかった。」と母子が手をとり喜んで喜んでいた。

支部活動では、県北支部、県南支部でそれぞれ合同の支部例会を開催し交流を深めた。秋田県と協同で行う屋外広告物実態調査が、各土木事務所単位で行われたが、終了後の意見交換に意義あるものがあった。

宮城県

二十一世紀に向けての現況

宮城県情報文化委員長 大友敏夫

宮城県屋外広告美術協同組合(鈴木定雄理事長)平成二年二月二十五日松島ホテルに於いて第二十回通常総会出席総数七十二名の参加において始まる。基本方針として九十年代は自由と開放と規制緩和の時代であり、新しい競争と変革の始まりとなる。変革の時代こそが企業の体質と使命をしっかりと見極め「天馬空を行く」の気概で自由奔放に創造力を発揮し連帯と強調で大きく飛躍する年と願って新年度の始まりである組合員一丸となって各委員会における事業計画に向けての出船である当組合には八つの支部にて構成されている。そのほかに「宮美広和会」青年部がある。各委員会も積極的な活動を展開されている。特に宮美広和会は(浅部喜久男会長)組合の中枢として活躍されており、組合の中枢として活躍している。特に宮美広和会は(浅部喜久男会長)組合の中枢として活躍しており、組合の中枢として活躍している。特に宮美広和会は(浅部喜久男会長)組合の中枢として活躍しており、組合の中枢として活躍している。

現在本県組合員総数二二三名で構成、組合には八支部がある。各支部の日頃の努力と熱意によって、月例に行われている理事会議案の報告、各委員会の案件報告、各支部会、広和会との相互に情報の交換等活性化されており、特に各支部間の合同支部会開催は家族ぐるみ従業員などで相互の親睦には大きな貢献がなされております。◎日広連共済加入事業所 八十三
購読数 五十三事業所 購読率 四十三%
◎日広連サイン・デザイン集購読状況 購読数 十三事業所 購読率 一〇・五%
◎労働保険事業組合 二十五
加入事業所数 二十五
以上のような状況なので皆々様方のご協力の程をお願い致します。
平成三年度の本県組合の基本方針として、九十一世紀は世界は激動の幕あけとなり、今後を予測する事が大変困難であります我々の業界の行政との関わりを考へる時「景観と調和」「労働力の不足」「情報化の変化と広告物に對して工夫と配慮を求められております。この様な時こそが情報をしっかりと見極めて、英知を結集し、個性・創造性を大切に連帯と協調で大きく飛躍しようとしてまいります。組合員の皆様と(協力心)ボランティア精神で事業計画を立案に達成致しましょう、皆々様方のご協力をお願い致します。

宮城県屋外広告美術協同組合(鈴木定雄理事長)平成二年二月二十五日松島ホテルに於いて第二十回通常総会出席総数七十二名の参加において始まる。基本方針として九十年代は自由と開放と規制緩和の時代であり、新しい競争と変革の始まりとなる。変革の時代こそが企業の体質と使命をしっかりと見極め「天馬空を行く」の気概で自由奔放に創造力を発揮し連帯と強調で大きく飛躍する年と願って新年度の始まりである組合員一丸となって各委員会における事業計画に向けての出船である当組合には八つの支部にて構成されている。そのほかに「宮美広和会」青年部がある。各委員会も積極的な活動を展開されている。特に宮美広和会は(浅部喜久男会長)組合の中枢として活躍しており、組合の中枢として活躍している。特に宮美広和会は(浅部喜久男会長)組合の中枢として活躍しており、組合の中枢として活躍している。

福島県

技能フェスティバルと福広美の名工たち

福島県情報文化委員長 黒沢 功

「伝えて育てよう!すばらしき技能」をテーマに、県内の名工、技能士などの作品を一堂に集めた「福島県技能フェスティバル」が十月二十五日から二十九日まで、いわき市の大黒屋デパート六階催事場で開催された。この催しは福島県の主催により「本県産業界の躍進のために技能者の果たす役割はまことに大きいものがある」という認識に立って、広く県民に技能の心を守り育てる気運を醸成することも、技能者自身がその責任の重要さを自覚し、今後の福島県の発展に資することを目的」として開催される技能の祭典で、内容は次の四部門で構成されている。

(1)名工の遺作品・先代の作品展
技能の歴史に大きな足跡を残された名工の遺作品と先代の作品を展示 (写真は本組合元相談役篠崎守三氏の遺作品「透書・立体拓本」)
(2)卓越技能者として労働大臣表彰を受けた「現代の名工」と、県知事表彰を受けた「県の名工」の作品を展示
(3)技能士の作品展
将来の名工として期待される、次代を担う技能士の方々の作品を展示
(4)訓練生の作品展
職業訓練施設在校生の作品と、実習風景等を紹介する写真パネル



平成二年度地区連各委員会開催状況
5月9日 技能開発委員会 盛岡、山王会館
5月29日 事業厚生委員会 仙台、弥生会館
6月14日 組織振興委員会 仙台、弥生会館
6月25日 情報文化委員会 仙台、弥生会館
6月27日 経営労務委員会 仙台、弥生会館
10月26日 行政対策委員会 仙台、勾当台会館
財政管理委員会 仙台、勾当台会館

青年部

今後の青年部活動指針

青森県屋外広告美術業共同組合

当組合青年部も結成から、早三年目を迎え、当初から懸念されていた問題点が幾つか出てきています。

一つには人手不足による自社の仕事に忙しいなどで、時間的制約が大きく事業への参加率が低いことです。

私達業界も建築関係同様、「3K」(きつい、汚い、危険)もう一つ付け加えるなら給料が安いということ若者たちにソッポを向かれています。

そのため休日でも仕事をしたいという間に合わないとか、たまたまこういう仕事をやりたいという若者でも、覚える要素が多過ぎるため任せられない内

に辞めていくのが数多くあります。又、青年部員の平均年齢がかなり高く、四十、四十五歳となり、親組合の活動や事業に理事として多数参加しているため活動そのものが組合なのです。

県内三地区に青年部の支部がありますが、青年部長のリーダーシップ不足からきている連携がなされていないことを痛感しています。

しかも、青年部員間の立場の違い(経営権をもつ役員とそうでない役員)の年齢差による意見のギャップ、青森支部青年部員九名(組合六名の内理事五名)、弘前支部六名、八戸支部八名(組合三二名)というような地域差がかなりある訳です。

ですから部長の立場をまとめるというよりも各支部ごとに連携をとっていただき、機を待ちたいと思っています。

それでも、前進ということから次のことを活動指針としていきたいと思っています。

(1) 中央会「組合青年部交流会」を通じて異業種の連合体である性格を活かし、交流による新しいビジネスチャンス創出とメリットを組織拡大策に活用していきたい。

(2) 青広美協の事業への積極的参加において、青年部員間の立場の違い

(経営権をもつ者とそうでない者)を理解しあいながら、一緒に組合を盛り立て、青年部からの提案、事業に対してご理解とご協力を得たい。

(3) アウトサイダーへの働きかけとして、彼らの平均年齢は三十五、四十五歳と若く、青年部を上げる意味でも大きな戦力になると思われれます。講習会や事業に青年部、組合員とおなじように呼掛け案内して、各支部の組合員になる様に押し進めて行きたい。

(4) 各支部又は合同レクリエーションの実施においては、ソフトボール大会、ボーリング大会、八甲田登山、岩木山登山、スキー、ゴルフ等ありますが支部毎に半年に一回づつでも必ず計画して実行し、親睦と体力維持に努めていただきたい。又、各支部にも呼掛けていただきたい。

(5) 社会奉仕による青年部のあり方として、清掃奉仕、献血運動、交通安全等の看板寄贈などありますが、レクリエーションと抱き合わせでも良いので考えていきたい。

(6) 各支部毎に青年部の財源を作っていたら、組合あつての青年部という観点から、三ヶ月に一回とか勉強会を持ち、又、各種交流会、講演会、大会等出席される方に幾らかの補助金を出せるようにしてほしい。

広和会活動報告

みやび広和会前会長 浅部喜久男

昨年の広和会活動の中で特に会員の絶大な協力といひ汗を流したのは、蒲生干潟の看板寄贈でした。今までも、社会奉仕活動は行ってはきましたが今回ほど、新聞・TV等(NHKはじめ民放各社)に大きく報道され、社会的にも大きな評価(県知事より感謝状贈呈)を得たことはありませんでした。

このことは、私たち組合の今後のPR方法(仕事を活かして社会に奉仕する)の在り方に大きな方向づけになった事と思います。

『大樹根 深』 花には

見えない根がある。

生前、広和会初代会長南部さんに、十年後には、あんなたちの時代だと言われたことが在りました。広和会も今年で十八年に入り歴代会長はじめ、OBの方々の一歩のあゆみが今日の広和会を育て花を咲かせているのだと思えます。

今の若手会員(四十五才定年で、現在一番年少がS三十九年生)がこの業界で花を咲かせるためには、深く根を張るには少なくとも十年の時間が必要になってきます。

十年たてば様変わりし、その意味するところがわかるようになると思う。このことから、『広和会活動には次ぎの時代への大いなる可能性がある』と思えます。基本計画のなかで、全国大会への参加と青連協活動への協力とうたっています。

この業界でいける私たちは、次ぎを創造するためにもっと時間を活用して異業種「人」の人間と会おう。異業種情報交換というものを必要とする時代に立ち至っているからであり、そこから新しい時代に対応した新しいビジネスのヒントを得る人も少なくないと思えます。

今後も広和会は、柔軟な発想とエネルギーギッシュな行動力をもって業界発展に活動したいと思えます。

なお、一月の広和会総会において八代会長にタガ・アートの佐藤孝くんがなりましたので、より一層のご協力を願ひ致します。

山形県青年部活動レポート

青年部会長 丹野 聖一

◎設立の事

昭和六十二年七月三十日、連日の蝉しぐれの中、会員相互扶助の精神に基づき、研修会や事業を行いつつ、社会的かつ経済的地位の向上を図る。という目的で会員十名で設立されました。

しかし設立にあたっては、会員が自主的に組織を作ろうとしたわけではなく、以前からあった「二代目会」(ボーリング大会等、主にレクリエーションの企画を山形市中心に行っていた)を

母体にしてエリアを県全体に広げ青年部として組織作りをしたのだが...と、親組合より要請があり消極的ではありましたが、青年部は、活動を始めました。

設立総会には、心に残るエピソードがひとつあります。当日、総会の後の懇親会で、会員のS君が、「今日は酒が飲めない。」と言いながらソワソワしているのどどうしたのかと尋ねると、S君「実は、家内がいよいよ出産しそうですね。」とのこと、S君は、早々に帰宅しました。後日聞いてみると、総会の二日後長男誕生、それ以来S君の長男の年齢を尋ねれば、青年部の年齢も分かるということになった訳です。

◎事業の事
設立から、満四年になろうとしておりますが、事業としては、年一回の総会、研修会事業、会員参加の経済的事業、組織拡大事業、などがあります。

研修会事業としては、講演会(過去二回)S、63年から青年中央会に加盟しており、中央研修会事業には、積極的に参加しております。特に、平成二年九月十月にかけて中央会より後援をいただき、「青年部会員の資質の向上及び組織運営の向上を図るため」を目的に「時代」にマッチした広告、町並みとサインデザインの研究」をテーマに講演会、先進地視察、事後研修と、前後三回に渡り研究会事業を実施致しました。

この事業では、事前研修として研修会テーマを中心に講演会を企画し、講師には、山形市内で活躍中のデザイナーをお呼びしました。

先進地視察は、東京都内(日々目まぐるしく変化する時代とそれに対応するサインの在り方を見る)と横浜の中華街(街に溢れる個性と培われた伝統を見る)を視察しました。

事後研修では、二回の研修会での感想を参加者全員がレポートにしてそれを発表しました。各自の視点の違いに驚いたり、納得したり、大変有意義な研修会でありました。又このような機会が在りましたらぜひやって見たいと思っております。

組織拡大事業としましては、その名

のとおり、会員数の拡大と各自業の充実化を図る事を目的に行っておりますが、あまり肩を張らずに入会資格者を対象に「ふれあい」をもっととうとしてイベントなどを企画して行きたいと思っております。 拙文失礼

技能グランプリ

東北勢上位入賞

第十回技能グランプリが平成三年一月十八日から二十一日までの四日間、千葉市・高度技能開発センター西千葉分所をはじめ八会場において開催され、東北六県から参加。

岩手県の長嶋看板店・長嶋勝敏氏が一位金賞を獲得しました。成績は次の通りです。

- 一位 金賞 長嶋 勝敏 (長嶋看板店(岩手))
- 三位 銅賞 刈田 幹男 (マルミ工芸(山形))
- 五位 有マツノ商美社(福島)
- 優秀賞 佐々木二郎 (アートサイン(宮城))
- 優秀賞 小畑 正博 (株あやきかく(秋田))



私事、このたび、縁あって、平成二年十一月二十六日付けで前任の小形事務局長に替り宮広美並びに東北地区連事務局長を担当することになりました。たいへん重責を体感しておりますが、微力ではございますが、皆様のかけ橋となりますよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。 事務局長 佐藤 啓視

都市環境の調和を目ざす屋外広告

9月10日 屋外広告の日

編集後記

啓蒙も過ぎ、庭の土にもぬくもりを感じ、南の方からの、桜前線の北上に耳を傾ける今日此頃です。昨年、第一号を出してから、早くも一年が過ぎ、第二号と、情報文化委員は公私多忙の中でしたが発刊までがんばりました。各県の色々な情報をより多く思っておりますが、少ない紙面です。そのような中で、内容の不備、編集技術も、もう一つとご意見はあられると思っております。ご容赦下さい。 終りに、この編集には、宮城の大友さんには大変ご苦勞をかけております。心より厚くお礼申し上げます。

情報文化委員長 古澤 龍一

青森県(有) 弘 宣 貝瀬 俊治

岩手県(有) カマダデザインルーム 鎌田 昌孝

宮城県・大友看板工芸社 大友 敏夫

秋田県(株)彩美堂 古澤 龍一

山形県(有) クロサワ看板工芸 黒沢 功



3位 マルミ工芸(山形)

1位 長嶋看板店(岩手)